

令和二年度 宮崎リハビリテーション学院 第一回 国語総合入学者選抜試験

(一) 次の文章を読んで、後の問いに答えよ

二人の娘たちも大人になり、それぞれ(A) ジョユウという仕事に打ち込んでいる姿を見るのはうれいことです。二人ともきものにも興味を持つているようで、長女の紀保、次女のたか子ともに、成人式や仕事を機会に振り袖や帯などを受け継いできました。紀保の成人式には新しい振り袖を作りましたが、たか子の時は、母が昔求めた古代裂の振り袖を着ました。ほかにも母の(B) コンレイのお色直しに着た振り袖を主人の妹が着て、たか子も着ました。(①)、妹のお色直しのきものは紀保が着ました。時間は(C) ケイカしても、いいものは変わらず残っていきます。これがきものすばらしさと改めて(D) ジツカンしています。(E) イゼンは、私の派手になった色無地などは濃い色に染め直していましたが、このごろは、娘たちに役立つようになったので、そのまま残しています。このようにまた次の世代へ受け継がれていくのでしょうか。娘たちはきものを着るとき、主人に意見を求め、尊重しています。こうしてきものへの(a)意識が高められていくのかもしれない。

最近若いかたもきものに興味を持たれていますが、親から譲り受けるだけではなく、自分のきものを新たにそろえる時代になりつつあるようです。(②)洋服感覚で選ぶので、たいへん地味な色を好む傾向がありますね。親の立場からいうと、若いかたには明るい色のきものを着てほしいと思うのですが。(③)地味でもはっきりした色を選ぶとか、帯を若々しくしたらいいと思います。(④)初めてきものを着るのが成人式だというかたが多いのはほんとうに(F)です。振り袖は娘の象徴ですから、本来は十代の(b)さんが着るものでした。昔と同じようにとはいかなくても、(G)若いときから日本のきものにふれていること、ひいては私たちがもつと積極的に伝えることが大切だと痛感します。

(藤間 紀子「娘たちに伝えるきもの」)

問一 傍線部(A)～(E)のカタカナの部分に漢字に直せ。

問二 本文中の(a)～(b)に入る漢字を一字で答えよ。

問三 本文中の[F]の語句として、最も適当なものを次の中から一つ選び、記号で答えよ。

ア・感心 イ・満身 ウ・尊敬 エ・残念

問四 二重傍線部「これ」が指す内容を本文のことばを用いて20字以内で答えよ。

問五 (1) (4) に入る語として、最も適当なものを次のア～エの中から一つずつ選び、記号で答えよ。ただし、一つの記号は複数回数選べないものとする。

ア・そもそも イ・また ウ・でも エ・たとえ

問六 作者は、傍線部(G)が大切だと言うが、あなたなら、きものの普及のためにどうすればよいと考えるか記述せよ。

(二) 次の文章を読んで後の問いに答えよ。

病院の玄関ちかくで、主治医のT先生をお見かけする。お若いが副院長でもいらつしやる。

「コンビニへ行ってきます」

と言うと、振り返られ

「今日は(a)ざしが強いです。風も強いので飛ばされませんように……」

と、私が手にしている日傘に目を向けながらおっしゃる。

入院してまだ日が浅い。体重三十六キロ少々。

玄関を出ると、風がサツと私の髪をもち上げた。(1)、この風に運ばれていく自分の姿を(A)ソウゾウし、思わず笑ってしまった。(2)、さきほどの主治医のことばに應えるかのように

(b)「ありえます!」

と、ひとりつぶやく。

「自律神経」を病んでいる。幼いころからずっと「元氣な子」だと(B)シュウイからとも言われながら育ってきた私だったが、このところ何年も慌ただしい日々が続いていたので、種々の疲れが出てしまったものと思う。

しばらくあるところに通っていたが、日増しに体が辛くなる。体重がどんどん落ちる。

そんなある日、救急の仕事に携わっている方の紹介で、恵まれた病院にたどりつくことができ、(C)シンライでできるお人柄の医師との出会いが得られた。このご縁を大切にしていくことが、いちばんの(D)リョウヨウウと思ひ、入院もさせていただいた。

コンビニまでは数分の道だが、少々の坂をのぼる。

(3)、入院して日が浅いとはいえ、二週間になろうとしている。近くではあるが、一人で(E)ガイシュツしようという気持ちにもなれた。

入院の日のことだが、ナースステーションでの手続きなどを終え、与えられた部屋まで、兄につき添われて、荷物を下げて歩く。(c)その時は何も気づかなかつたが、少しして、今度は昼食を受けとりに病棟のロビーへ行こうとすると、足もとがふらついている。さっきは荷物も提げて歩けたのに、なぜだろうと思った。それでも手すりなどあるのでロビーへは行けた。

両手で食事の載った盆を受けとり、おそろおそろ自室へ向かおうとすると、今度はふらつかずに歩ける。

(4)「荷物や、食事を載せた盆の重みが、体重を補ってくれ、そのために歩行ができ

ていた」という状態であったようだ。

(青樹 生子「落葉松の径 —— 病う日々の中で」より)

問一 傍線部 A～E のカタカナの部分に漢字に直せ。

問二 ①() ②() ③() ④() に入る語として最も適当なものを次のア～エの中から一つずつ選び記号でこたえよ。ただし、一つの記号は複数回数選べないものとする。

ア・つまり イ・でも ウ・そして エ・ふと

問三、本文中の (a) に入る漢字を一字で答えよ。

問四、傍線部 (b) 「ありえます！」とあるが、どういったことがありえるのか。本文のことばを用いて20字以内で答えよ。

問五、傍線部 (c) 「その時は何も気づかなかった」とあるが、何に気づかなかったと筆者は考えているのか。本文のことばを用いて40字以内で答えよ。

令和二年度 宮崎リハビリテーション学院 第二回 国語総合入学者選抜試験

(一) 次の文章を読んで、後の問いに答えよ

欧陽可亮 (A) キョウネン七十三才 国籍 中国 あれは平成四年五月一日未明のことだった。

一人の(B)イダイな中国の甲骨文字の学者が、八王子の郊外にある老人ホームで、家族に看とられることもなく、ひっそりと息を引きとった。

この老学者の死は、書の聖祖として高名な欧陽詢の(C)チョッケイの子孫が歴史上では四十四代目をもって終ったことを告げていた。

欧陽家は、中国でも(D)クツシの(a)由緒正しい名家である。その家系からは多くの(E)イツザイが生まれており、可亮氏の父君は清朝末期(一九一一年頃)から、中華民國二十年後半(一九三五年頃)まで、公使として英、米、チリ等に長く滞在して活躍した外交官であった。(1)栄光を背負ったこの老学者が、人生流転の末に、遂に祖国中国の土を踏むことなく、異国の地日本で、しかも八王子の奥深い山裾の老人ホームで淋しく世を去って逝ったのである。語らずとも、この老学者の生涯がいかに教奇で壯絶なものであったか想像出来るのではないだろうか。

気も遠くなるような苦しく長い人生の斗いを終えて、今、欧陽可亮は白木の棺桶の中に生まれながらに備わる大人の風貌をそのままにして静かに横たわっていた。

私は棺の傍に立って、その見事な白いあごひげに、(2)指を触れてみた。私は嗚咽が喉をついてFになるのをぐっとこらえ、唇を噛みしめて心の中で死者に語りかけた。

『先生、とても立派なお顔ですよ。本当に長い間ご苦労さまでした。(3)何も心配なさらずに、ゆっくりとお休みになつて下さいね』

七十三才という年は、老人ホームでは高令の方ではなかった。可亮氏と、この老人ホームで寝食を共にしてきた八十才、九十才のご老人達が、亡き人を慕って棺の周りに集り、がっくりと肩を落とし、首をうなだれて立っている姿が、ひとしお哀感を誘った。

この(b)老人ホームの周囲の山々は、とりたてて特徴がないだけに、何時まで眺めていても、倦むこともなく疲れを感じることもない。

可亮氏は、東京の雑踏から離れて、この平凡なたたずまいの自然を友として、七十三才までの人生の最後の二年半を心静かに充実感に浸って過すことが出来た。

よく氏は私にこう言った。

「川合さん、老人ホームとても良い所です。みんな大変親切。わたし大満足です」その言葉を聞いた時に、私は(4)胸を撫でおろしたものである。

(川合 継美「同舟 欧陽可亮伝」)

問一 傍線部(A)～(E)のカタカナの部分に漢字に直せ。

問二 傍線部 (a) 「由緒」の読みとその意味を述べよ。

問三 本文中の[F]の語句として、最も適当なものを次の中から一つ選び、記号で答えよ。

ア・そこはかとなし イ・ほとぼりそう ウ・感謝しそう エ・敬服しそう

問四 傍線部 (b) 「老人ホームの周囲の山々」とあるが、同じような文章表現を本文中から抜き出せ。

問五 (1) (4) に入る語として、最も適当なものを次のア、エの中から一つずつ選び、記号で答えよ。ただし、一つの記号は複数回数選べないものとする。

ア・これからは イ・ほっと ウ・そっと エ・そのような

(二)、 次の文章を読んで後の問いに答えよ。

ご紹介にあずかりました宗内です。標題に従いましてお話して参りたいと存じますが、私は今、大変戸惑っています。と言いますのは、標題の「人は何故書くのか」までではないのですが、副題と言いますか、「——私の場合を切り口に」などという(A) バカな但し書きをつけてしまったところが(1) 気になるのです。

一体、私宗内教とはどの何者、物書きとしては全く(B) ムメイの、いわばどの馬の骨とも分らない人間です。(2) 例えば、県内出身の林真理子とか、これから話の中に出て参ります瀬戸内寂聴とかいった著名な物書きなら、「私の場合」というのが大いに生きて、たくさんの人々の興味や関心呼び起こすところでしょうけれども、どの馬の骨とも分らない宗内何某では、人様にとつてなんの魅力もなく、(3)、人集めの材料にはなりません。

実は私、(4) これと同じ失敗をしています。先ほど私の著書『演歌つれづれ』をご紹介いただきましたが、この副題が「自伝風エッセイ」となっております。出版時、私としたら、おこがましくも内容にはほどほど自信があり、これで十分行けると思っていました。また、お読みいただいた方々からは、(C) セジぬきに、かなりのお褒めの言葉を頂きましたが、これが、マスコミなどほとんどの文芸機関から無視され、もちろん本県の『山梨日々新聞』からも無視され、そうした結果、出版後三年近く経ちましたが、これは出版社に聞いてみなければ分からないことではあります。まだ百部も売れてはいないのではないのでしょうか。ただ、日刊紙の『日本農業新聞』で、農民文学作家の南雲道雄氏が、書評欄の中では一番大きなスペースのところ、書評をしてくださり、また、(D) シ カク障害者のためにいろいろな読み物を点字翻訳化してインターネット上に流している「ないぶネット」というところが、この『演歌つれづれ』に読者からの(E) キボウがあったということ、これを点字化して、今、インターネット上に流しています。が、やはり、(F) 物書き世界の無名の人間の個人史など、にわかに興味を持たれようはずもなく、例えばネット書店の最大手のアマゾンでは、出版以来まだ数冊しか売れていません。これに比べ、やはりご紹介いただきました『先生、出版です！』は、私がまさしく教育界の人間であることもあってか、まあまあ売れ行きを見せています。

どの世界でもそうですが、名前の知名度や普及度は大変重要であろうかと思えます。そのようなこと（a）も承知であったのに、この度「書く喜び、創る愉しさ」に関わって講演を依頼されたとき、つい「私の場合」を付け加えて承諾してしまいました。それは、けっして物書きの専門家ではない私には、そのようなテーマで考えたことがあまりなく、つまりは自信がなかったもので、つい、お茶を濁すような気持ちで、「私の場合」なら、と応えてしまったのでした。（G）大変申し訳ない仕儀でございます。

それにしても、このような私の話に、部屋一杯に皆様お集まり下さり、真に恐縮に存じます。「人は何故書くのか」、個人的な話に終始してはあまりに失礼、また面白くもないので、私も一応は心理学者の（b）くれ、多少冗長になるかもしれませんが、「私の場合」を切り口に、「人は何故書くのか」を心理学的にも考察してみようと思えます。

（宗内 教「人は何故書くのか」）

問一 傍線部A～Eのカタカナの部分を漢字に、漢字の部分をカタカナに直せ。

問二 ①（①）（④）に入る語句として最も適当なものを次のア～エの中から一つずつ選び記号でこたえよ。ただし、一つの記号は一度しか選べないものとする。

ア・これが イ・とても ウ・すでに エ・ましてや

問三 本文中の（a）（b）に入る漢字を一字で答えよ。

問四、傍線部（F）「物書き世界での無名の人間」とあるが、同じような表現の言葉を本文中から三文字で抜き出せ。

問五、傍線部（G）「大変申し訳ない仕儀」とあるが、それはどうしてか。本文のことばを用いて20字以内で答えよ。

令和2年度

宮崎リハビリテーション学院

第3回 国語総合 入学者選抜試験

その一

(一) 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

コーチは、聞く、質問、要求、そしてアクノレッジ(受け入れと (a) しようにん) をベ
ースにコーチングを進めます。

それに少し (b) スパイスとして、コーチ自身の体験談や、メタファー(逸話)それから、
本の紹介、人の紹介などもします。

何度も言いますが、コーチが直接問題を解決したり、ウサギの代わりに何か行動を起こ
すことはありません。

考えて、行動を起こすのはウサギであり、その結果を (c) きようじゆするのもウサギに
ほかなりません。

コーチはウサギに色々な視点に移動できるように「質問」を創り「会話」を構成します。
ウサギの視点が固まってしまわないように、会話にいい緊張を持ち込めるように、会話を
新鮮に保つために、ウサギに色々な立場に立つてみることを (c) すすめます。

ウサギに自分の一〇〇年後を話してもらったり、もしウサギがキツネだったらとか、1
つのことを色々な角度から眺める練習をします。

問題が生じてから (d) これをやってもうまくいきません。普段から視点を移動する練習
をします。

ある意味では、コーチングはその過程のすべてが視点の移動だとも言えます。例えば問
題解決ですが、問題を解決する方法は、

- ・ 問題に対する態度を検討する
- ・ その問題から逃げ出す方法について検討する
- ・ 何が問題なのかを明らかにする
- ・ その問題を放置する
- ・ 他に解決できる人を探す
- ・ 過去に似た問題を解決したことはないか？ もしあったらどのように解決したか、そ
れを参考にする
- ・ その問題がなかったとしたら、今はどんなことをするか (a) そうぞうする

問題解決の1つは力を使うこと。つまり、問題を排除するか、問題をねじ曲げる。もう1つは、問題の見方を変える。例えば問題を問題と言わないとか、問題を自分のものではないと思うとか。

問題そのものには手を加えず、問題のとらえ方、視点を変えていく方法です。

コーチが自由で (c) わくにとらわれていなければ、問題をとらえる視点を自由に変えていくことを楽しめます。

それから、問題は抱え込んではいけません。外にどんどん出したほうがいい。問題を外に出すために、何が問題なのかについて話すことです。

人に向かってでも、紙に書いてでもいい。とにかく外に出すことです。

そして、 (c) 内側はとにかく軽くしておく。

それから、「今抱えている問題がなくなったら心が軽くなって幸せになれる」という考え方は **A** 合理的です。

この世界で生きていて、問題がゼロになることなどあり得ません。それよりは、問題の10や20抱えていても、楽しくて幸せでいられるという考え方が現実的で、合理的です。

(伊藤守『もしもウサギにコーチがいたら』)

問1 傍線部 (a) (e) までのひらがなを漢字になおさない。

問2 傍線部 (ア) 「スパイス」(ウ) 「内側」は具体的に何をあらわしているか、簡潔に書きなさい。

問3 傍線部 (イ) 「これ」は何を指すか。文中の言葉を使って書きなさい。

問4 空欄 **A** にはまる漢字一字を次の中から選び、漢字で書きなさい。
 一 不 無 反 非 被 一

問5 文中でしばしば使われているコーチングの対象である「ウサギ」とは、具体的にどのような人物をあらわしていると考えられるか、簡潔に書きなさい。

問6 破線部「コーチはウサギに色々な視点に移動できるように「質問」を創り「会話」を構成します。」について、以下の問題がある場合、コーチとしてどのような質問を考えるか、文章に示された解決方法を参考にして、3つ書きなさい。

問題 「苦手な教科が一つあって、勉強してもその教科だけなかなか結果が出ない」

(二) 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

私は乳児から幼児にかけて目が悪く、いつも眼帯をしていました。悪い方の目に眼帯をしている場合は片目が見えていいのですが、訓練のためいい方になっているときは世の中はほとんど真っ暗、失明と同じでした。

だからいい方の目に眼帯をする場合、その前に好きなことをしておかねば、と思うとき私はいつも「オバケのQ太郎」^注をむさぼり読んでいました。

その必死さといったらもう、沙漠をさすらう ^(a) たみが何日かぶりに発見したオアシスでごくごく水を飲み干すような勢いでした。

字がかるうじて読めたのが3歳くらいで、まんがは完全に理解できました。だから7つ年上の姉がアトム^注に初恋していた頃、私はドロンパ^注に初恋していたわけです。

アトムはアトムがロボットであるということにまつわる悲しい話が多くて、眼帯をした闇の世界で出会うには淋しすぎました。人間と人間以外のものが同居するむつかしさがかなり現実的に描かれていたのです。今となつては ^(b) そこに真実の重みを見出すことができませんが、そのときの悲しい私、頼れるものは家族の愛と空想の友人だけだった私には重すぎました。

だから私はもっぱら藤子ワールドの楽しい友人たちと、ひとりの時間、目の見えない時間を過ごしていたのです。そのアナザーワールドには死や使命はなく、日常と、日常の中の非日常(Qちゃんが町を普通に歩いているだけです)いけれど、異様な出来事とは意外にすぐ受け入れられるものなのです、 ^(c) 実際が描かれていて、そこに 真実味をかぎとつたのでしょうか。それ以来すりこみのように私は藤子ワールドと寄り ^(d) そつて年を取ってきました。

私の作品には、その影響が ^(e) けんちよです。

あくまで日常に密着して起こる不思議な出来事、箱庭的世界観、はかない性、家族意識の強さ……いくらでも指摘できます。

私は昔から異様なものや、変わったものの中に 人間性が感じられるようなものが好きなのですが、それも異種と自然に暮らす藤子ワールドの人々に根を持っています。

だから私にとって ^(f) 藤子先生はある意味で私を形成した神のひとりです。会える日が来るなんて、思ってもいませんでした。

そうしたら、この間対談してしまいましたねえ！ 藤子F先生と。

もう嬉しくて死んでしまうかと思いました。しかも、私の書いたものを読んでくださっ

その四

ているではないですか！ ほめてくださったではないですか！

そんなこと、ありえるなんて思ったこともなかったです、本気で、不思議でした。

人生の神秘を感じました。

これで私は私の子供時代を A、と本気で思いました。書き続けていると、こういう贈り物があるのです。

私は生きてきて何回か「これはかなり絶望的でもうだめなんじゃ。」と大きいことから小さいことまで、実際のなことから精神的なことまで思うことがありましたが、なんとなく心に一点、ほのかに明るい点があつて、それが堂々と「大丈夫。」と言うのです。そうやって ^(a)いくども乗り越えてきたのです。

私はそれを未来は未知だからだ、と思っていました。可能性というものと、持ち前の樂觀性がそうさせるんだろうな、と。

でも今回、もしかするとそれは違つて、未来の自分が今自分に向かつて「何とかなつて、無事こうしているよ、がんばれ。」というメッセージを送っているのではないかと思ひ当たりました。友達でよくこういうことを言う人がいるので、^(e)かんかされたのかもしいれないけれど、何より当の本人が、「ああ、3歳の私のところに行つて、今はつらくてつまんなくて自分を投げ出したくても、大人になって本を書いて、それをQちゃんの作者が読んでほめてくれるよ、と言つてやりたい！」と強く強く思つたのです。

こんなに強く思つたら、届くのではないかと私は思いました。もしもキテレッツ^注やドラえもんに出てくるみたいな気楽なタイムマシンがあつたら、私はすぐさま飛んで行つて必ずそのことを告げるでしょう。そうしたらあの小さな私はすごく喜んで、訓練もつらくないと思うでしょう。

でも、それができないのでこの思いは過去の私にはただ明るい一点となつて、かすかにしかし確実に感じられるわけなのです。

ということとは、^(E)今の私にメールを送っている未来の私^注がきつと存在するということ^注で、何やら頼もしい話ではありませんか。

(吉本ばなな「タイムマシンにお願い」『夢について』より)

注・「オバケのQ太郎」…漫画家藤子不二雄の作品の一つ。

・アトム…漫画家手塚治虫の作品「鉄腕アトム」のロボットの主人公。

・ドロロンパ…「オバケのQ太郎」に登場するお化けの一人。

・キテレッツ…漫画家藤子不二雄の作品の一つ。

その五

問1 傍線部 (a) ～ (e) までのひらがなを漢字に直しなさい。

問2 空欄 A に当てはまる語句を次の中から選び、符号で答えなさい。

あ 黙らせる い 笑える う 許せる え 悲しませる

問3 傍線部 (ア) 「実際」と同じ品詞であるものを左の傍線部の中から選び、符号で書きなさい。

あ 事実と意見は区別せよ。

い 本当のことが知りたいだけだ。

う 結局、問題は解決しないままだった。

え 明日が決勝戦になったと連絡が来た。

お 話そのものは見事だった。

問4 傍線部 (イ) (ウ) はそれぞれどういうことを言っているのか、簡潔に説明しなさい。

問5 傍線部 (エ) とほぼ同じことを述べている箇所を文章中より抜き出しなさい。

問6 あなたが子どもの頃に影響を受けた有名人・偉人、または支えてくれたり世話をしてくれた人に出会ったら、どんな感謝の気持ちを書きますか。その理由がわかるように書きなさい。